

□議員 矢田松夫

1 前年度の蒔いた種が（施策）がどのように芽（成果）が出たのか

論点	地域の特性を活かしたいいチームが出来たのか。
回答	「協創」の言葉がいいチームづくりであり、協創の街づくりを押しすすめることが住みよい暮らしの創造につながっていくものであると考える。

論点	山口東京理科大学薬学部建設工事は、効果的、効率的に行われたか。
回答	事業開始当初からさまざまな問題を抱える中進めてきたが、議員や市民の皆さんに大変な心痛をかけてきた。深くお詫び申し上げます。 今後は、当該事業を教訓とし、適正かつ円滑な工事を進めていく。

論点	協創の「観点」と市民からの「視点」には大きな乖離があるのではないか。
回答	良いチームとスマイルプランナーという 2 つの組織が自立的に発展することが協創の基盤づくりであることは、議員とは同じ考えである。

2、スマイルUP3本柱について

論点	事業の継続と新規を織り交ぜつつ、事業の「縮小」はすべきではない。
回答	財源を効率的、効果的に活用することで、重点プロジェクトの充実に努め、第2次総合計画の将来都市像の実現を目指していく。

論点	全ての施策が、労働力人口の増加、人口減少の歯止めとなるよう連動すべきではないか。
回答	人口減少抑制に向けた地方創世につながる施策を考慮している。市の魅力を高めるとともに、魅力発信を行って労働力人口の増加、人口減少の歯止めを図っていく。

論点	職員の資質向上も大事だが、職場の労働条件改善矢田松夫働き方改革を最優先すべきではないか。
----	--

回答	職員が働きやすい職場をつくるために、働き方改革やワークライフバランスを推進することも大変重要である。長時間労働の上限規制や職員数の確保、所属長の管理運営の下での役割の平準化を行う。
----	--